

(EGFR 阻害薬による爪囲炎・陥入爪に対するガター法の有用性の検討) に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年8月5日～2024年3月31日

〔研究課題〕

EGFR 阻害薬による爪囲炎・陥入爪に対するガター法の有用性の検討

〔研究目的〕

抗癌剤であるEGFR阻害薬の副作用のひとつである爪囲炎・陥入爪は、疼痛が強く、患者さんのQOLを大きく下げる症状です。爪囲炎に対する治療に関しては、推奨されているものがありますが、既存の治療法に抵抗性であり、抗癌剤の減量・休薬が必要となることも多いです。陥入爪の治療の1つに、痛みのある爪と皮膚の間にチューブを挿入し痛みを軽減するガター法があります。本研究では、EGFR阻害薬による爪囲炎・陥入爪に対するガター法の有用性について検討します。

〔研究意義〕

ガター法は既存の治療方法に比べて非侵襲的で副作用の少ない治療方法であり、EGFR阻害薬による爪囲炎・陥入爪に対するガター法の有用性があることが分かれば、患者さんにより負担の少ない治療を提供することができる可能性があります。

〔対象・研究方法〕

2018年4月～2021年6月に帝京大学医学部附属病院皮膚科を受診したEGFR阻害薬による爪囲炎・陥入爪に対し、ガター法を行った患者さんを対象とします。患者さんの背景(年齢、性別、発症時期、現病、抗がん剤の種類など)及び爪囲炎・陥入爪の部位などの臨床的特徴、併用治療、治療による経過を後ろ向きにカルテから情報を収集し、効果を検証します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 皮膚科

責任者：帝京大学医学部皮膚科学講座 主任教授 多田弥生

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は厳重に管理されます。学会や論文など学外へ情報を発表する際には匿名化を行うため、患者さんが特定されることはありません。対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:主任教授 多田 弥生

研究分担者:員外助手 上松 藍、准教授 鎌田昌洋

所属:帝京大学医学部皮膚科学講座

住所:東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211

(代表) [内線 32610]